

◆水素社会実現に向けた東京都の政策目標

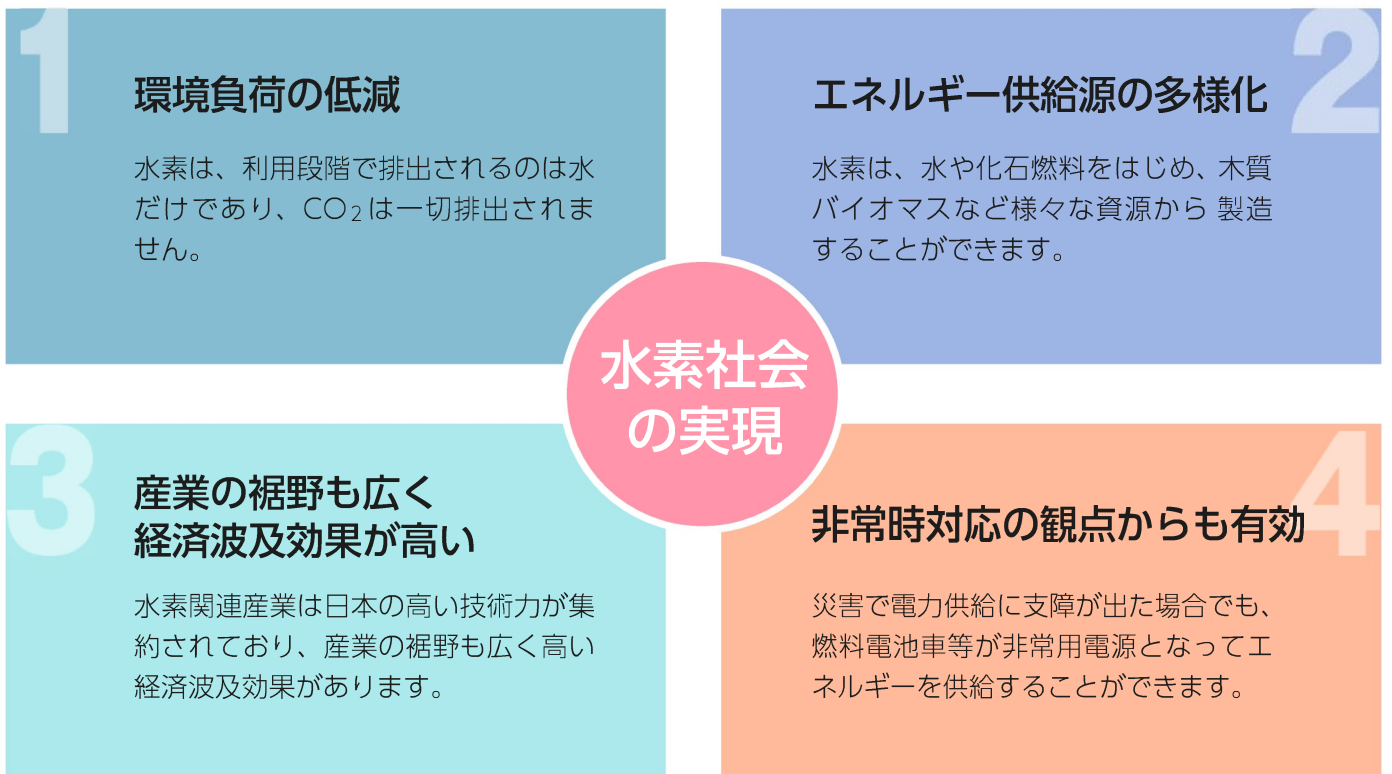
災害時のエネルギーの安定供給確保、家庭内におけるエネルギー消費量の増大、地球温暖化の深刻化といった課題に対応するために、国では「エネルギー基本計画」「水素基本戦略」「水素・燃料電池戦略ロードマップ」を、東京都では「東京都環境基本計画」を策定し、取組を進めています。これを受け、選手村地区のまちづくりでは「自立性の確立」「快適性とエコな暮らしの両立」「環境先進都市のモデル」を目指すべき将来像としています。

特に水素エネルギーの活用については、2020年までと2020年以降を見据えた政策目標を定めるとともに、民間企業や都内自治体等と「Tokyo スイッチ推進チーム」を発足するなど、水素社会の実現に向けた施策を推進しています。

◆水素エネルギーの意義について

水素エネルギーは、利用段階でCO₂を一切排出しないため、再生可能エネルギーの電力で水を分解して大量に水素を製造するシステムが実用化されれば、低炭素社会の切り札となります。また、水素は石油や天然ガスなどの化石燃料をはじめ、バイオマス等からも製造することが可能であり、エネルギー構造の変革にもつながります。

さらに、水素貯蔵タンクや燃料電池などの水素関連製品には、日本の高い技術が集約されており、関連する産業分野の裾野も広いことから、高い経済波及効果が期待されます。加えて、各種燃料電池製品を、非常用電源として活用することで、より一層災害に強いまちづくりを行うことができます。



※「水素社会の実現に向けた東京戦略会議（平成26年度）とりまとめ」より